



SANJO ROTARY CLUB

三条ロータリークラブ

週報 No.24

2025.1.15(No.3229)

ロータリーはステージ・
みんなが輝く!

第2560地区ガバナー／南雲 博文
会 長／渡 辺 良 一
会長エレクト／柳 取 崇 之 (クラブ奉仕A)
副 会 長／西 山 徳 芳
幹 事／船 越 良 則
S A A／落 合 孝 夫
会 計／小 林 吾 郎
直 前 会 長／吉 井 直 樹
会長ノミニ／小 林 吾 郎 (クラブ奉仕B)

例会日／毎週水曜日 12:30～
例会場及び事務局／
三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内
例会場／TEL 34-3311
事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095
E-mail : sanjo-rc@cpost.plala.or.jp
https://www.sanjorotary.site

■本日の出席会員数:57名中41名
■先々週出席率:75.00%

【先週のメイクアップ】

[1.8] 長岡東RCへ

・田久保良さん

[1.9] 三条RACへ

・渡部 宏さん、 相場弘介さん、

・成田秀雄さん



「1月の巻機山」

会長挨拶

渡辺良一 会長



皆さんこんにちは。ご挨拶いたします。
本日の挨拶をどの話題にしようかと思っ
ていましたところ、越後七不思議が目に入り、その話題をお話いたします。

越後国に伝わる珍しい事柄を集めたもの
で、七不思議は様々な内容が語り継がれております。いろい
ろな不思議が紹介されていますが、親鸞の伝説にかかわる七
つが代表的な不思議であります。

越後国は親鸞の流刑地であり、浄土真宗が盛んであったた
め、動植物の珍種を親鸞の起こした奇瑞*として伝えたもの
であると考えられています。

高橋克庵の『北遊紀行』では22個、『北越名所旧跡奇物名
産地理案内之全図』では49個の不思議が紹介されています。

※奇瑞 (きずい) …めでたいことの前ぶれとして起こる不
思議な現象。吉兆。



2024～2025年度国際ロータリーのテーマ

代表的な七不思議

1. 逆さ竹（さかさだけ）

新潟市中央区鳥屋野の西方寺に現存する国指定の天然記念物。

天然記念物指定名称は鳥屋野逆ダケの藪（とやのさかさだけのやぶ）。

枝が下向きに生える枝垂れタケ。親鸞が竹杖を逆さに土に挿したものに根が生えたと伝える。逆さ竹はハチクが枝垂れる変異種であるが、竹の枝垂れは他にほとんど例がなく、極めて珍しい奇形であることから1922年（大正11年）10月12日に国指定の天然記念物に指定された。近隣に所在するゆかりの寺である西方寺には、標本が保存されている。

竹が枝垂れる原因については、長期間にわたって狭い範囲に密生して生育することによる影響や、豪雪による積雪量の多い期間が長いことによる中空の竹枝の耐久性などの因果関係が議論されてきたが、未だに確定的なものはない。

2. 焼鮎（やきふな）

新潟市西区山田の山王神社（現在の山田神社）での出来事。

1211年（建暦元年）11月、親鸞が赦免され当地を去る際に催された酒宴の肴に、焼いたフナが用意されたが、親鸞が傍らの榎（えのき）に纏（まとう）っていた袈裟を掛け「わが真宗の御法、仏意にかなひ、念仏往生間違ひなくんば、この鮎必ず生き返るべし」と唱えてから池に放したところ、生き返り泳ぎだしたという。

それ以来、当地では体に黒い焦げ目模様のあるフナが獲れるようになったと伝えられている。1796年（寛政8年）には親鸞が袈裟を掛けたとされる榎の枝が折れたため、その枝を挽くと切り口の一方に親鸞の姿、もう一方に鮎の形が現れた。この2つの木の盤を山王神社の神官であった田代家で厨子に入れて安置していたが、親鸞の盤は火災で焼け焦げてしまっている。神社近くの焼鮎駅は、この伝説にちなんで名付けられた。

3. 八房の梅（やつふさのうめ）

阿賀野市小島の梅護寺に現存する。ひとつの花に八つの実がなる八重咲きのウメ。親鸞が「のちの世のしるしのために 残し置く 彌陀頼む身の たよりともがな」と詠み、梅干の種を植えて育った梅であると伝えられている。八房の梅は全国にあり、座論梅や品字梅とも呼ばれる。山梨県の洞雲寺、岐阜県の聖蓮寺にある八房の梅はそれぞれ県指定の天然記念

物となっており、宮崎県児湯郡新富町の湯ノ宮の座論梅は国指定の天然記念物となっている。

4. 珠数掛桜（じゅずかけざくら）

阿賀野市小島の梅護寺に後継樹がある。国指定の天然記念物であるが、原木は枯死している。天然記念物指定名称は梅護寺の珠数掛ザクラ（ばいごじのじゅずかけざくら）。サトザクラの栽培品種である。親鸞が桜の枝に数珠を掛け仏法を説いたところ、数珠のように花がつながり咲くようになったと伝えられている。また、花房が10cm以上になるという特徴もある。梅護寺の桜の花は紅色で約80枚の花びらで構成され、八重桜の中でも特に美しいことから、昭和2年4月8日に国指定の天然記念物に指定された。

2002年に原木がならたけ病に感染し、後継樹を作るため組織培養を開始した。2006年・2007年に培養が成功した後継樹2本を含む12本が梅護寺に移植された。

5. 三度栗（さんどぐり）

阿賀野市保田（やすだ）の孝順寺にあるが、当時の三度栗は枯れ、現在は新しい三度栗が植えられている。一年に三度花が咲き、6・9・11月に実を結ぶという栗。親鸞が植えた焼栗から育ったと伝えられている。

6. 片葉の芦（かたはのあし）

上越市五智の居多神社に現存する。

アシ科の植物は通常、葉が互生するのに、それが片側一方向にだけ伸びるアシ。親鸞が神社に参詣し念じたところ、池に生えるアシが一夜にして「片葉」になったと伝えられている。また、親鸞が池に映る自分自身の顔を像にしようと彫刻をしていた際の伝承も残っている。彫刻をしていたある日、心を安らげる葦笛の音が聞こえ、ふと見上げると美しい乙女がほほえみかけてきたという。芦笛の音が何日も続き、像が完成したときすべての芦が片葉になっており、乙女により片葉が摘み取られていたという。それ以来「片葉」になったとも伝えられている。

直江津の居多ヶ浜で船を降りた親鸞が越後の地に第一歩を記した記念に、上越市国府に七不思議第一番として「片葉の葦の石碑」が立っている。

片葉の芦は全国にあり、本所七不思議のひとつの片葉の葦や遠州七不思議の妙日寺の片葉の葦がある。地形や水流などの影響で、片葉になるという。

7. 繋ぎ榧（つなぎがや）

南蒲原郡田上町大字田上丙の了玄寺に現存する。国指定の天然記念物。

天然記念物指定名称は了玄庵のツナギガヤ（りょうげんあんのつなぎがや）。

糸を通したような穴のある実がなるカヤの木である。親鸞が植えた食膳のカヤの実から育ったと伝えられている。また、親鸞が護摩堂山で法話をした際に護摩堂城主から貰い受けた、農民が年貢代わりに納めた糸でつないだ榧の実を、植えたものであるとも伝えられている。

榧の実の穴は種子が発芽する際に幼根が出る為のものだが、了玄寺の榧の実はその穴が顕著に現れるという。

了玄寺の近くには、国指定の天然記念物・田上村ツナギガヤ自生地があり、了玄庵のツナギガヤはこの自生地から移植されたものである。

8. 八珍柿

八珍柿（はっちんがき）は渋柿の品種。正式名は平核無柿（ヒラタネナシガキ）。実の中に種のできないカキの変種。

越後七不思議の次に珍しい、種がない柿という意味から「八珍」とも言われている。

原木は新潟市秋葉区古田にあり、樹齢約300年、高さ16m、幹周り200cmの巨木で県指定の天然記念物になっている。明治20年頃、鶴岡市の鈴木重作が栽培していた八珍柿を庄内藩家老職の酒井調良が気に入り、栽培を広げたものが庄内柿と呼ばれるようになり、昭和初期になって佐渡郡羽茂村（のちの羽茂町、現在の佐渡市）の杉田清が佐渡島で産地化をすすめたものがおけさ柿である。

9. 明治天皇もご覧になった地中より燃る火越後の七不思議・火井（天然ガス）

未来のエネルギー資源として期待されているメタンハイドレートが新潟県の沖合に埋蔵されていることが確認され、注目を集めています。メタンハイドレートはメタンなどの天然ガスと水が結合してできた氷状の固体結晶で、「燃える氷」ともいわれています。いずれは枯渇してしまうかもしれない石油や天然ガスに代わるエネルギーと考えられています。

エネルギーといえば、越後は古来から地下資源大国でした。例えば、石油は「燃える水」と呼ばれ、天智天皇7年（668年）に越後国が都に献上したことは有名です。現在でも国内で生産される原油の55.3%、天然ガスの71.7%は新潟県内で産出されています。（「原油・天然ガスの生産概況（平成24年

データ）」新潟県産業振興課新エネルギー資源開発室ホームページより）。

天然ガスは、江戸時代以降、「越後の七不思議」の一つに数えられ、とにかく「奇異な現象」であったようです。天然ガスが噴き出る井戸は「火井（かせい）」と呼ばれ、様々な書物に登場してきました。『北越奇談』（橋崑崙著）では、燃土・燃水・白兎・海鳴・胴鳴・無縫塔とともに「古の七奇」として紹介されています。「入方村（如法寺村、現在の三条市如法寺）のある百姓の家炉の隅に、石臼をおき、その穴に竹をさして火をかざすと音がして火がうつり、盛んに燃えて炎は1尺（約30センチメートル）程もあがる。縦横に竹を組み合わせれば、その竹の穴ごとに火が燃える」と、その様子を葛飾北斎の挿絵付で述べています。見物しているのは噂を聞きつけて立ち寄った旅人でしょうか。物珍しさから多くの見物人が訪れたようです。明治天皇も明治11年（1878年）の北陸巡幸の際に立ち寄られ、ご覧になったといわれています。挿絵を描いた葛飾北斎の著名な画集『北斎漫画』にも、竹から燃え上がるガスの炎を描いたスケッチを見出すことができます。このスケッチからは、ガスの炎を照明として利用していた様子がわかります。

火井についての記述は、『北越雪譜』（鈴木牧之著）、『二十四輩巡拝図絵』（僧了貞著）にも取り上げられています。火井の所在地は、如法寺村のほかにも一之宮村（現小千谷市）・五日町（現南魚沼市）・間瀬口村（現糸魚川市柵口）などが挙げられます。

しかし、火井から自噴する天然ガスは簡単に採取できる反面、その使い方は危険を伴うものでした。そのため、県内各地に火井は存在するものの、この頃はまだ広く県民に供給できるものではありませんでした。明治時代に入ると、天然ガスの役割は「灯り」としての存在意義が強くなり、ガス灯などとして利用されるようになります。「灯り」として利用していたガスが、「熱を発するもの」として暖房器具や調理器具などに利用されるのは20世紀に入ってからのことです。新潟県内では、長岡で明治38年（1905年）から、新潟で明治44年（1911年）からガス事業が始まりました。

越後国に伝わる珍しい事柄を集めたもので、七不思議は様々な内容が語り継がれております。いろいろな不思議を紹介させていただきました。

幹事報告

船越良則 幹事



◎三条ローターアクトクラブより

「1月第二例会のご案内」

日時 1月23日(木) 19:30～

会場 リサーチコア 4階・異業種交流室

◎三条北RCより

「第44回8クラブ有志ゴルフ大会打ち合わせ会のご案内」

日時 3月4日(火) 18:30～

会場 三条ロイヤルホテル

◎室賀ガバナーエレクト事務所より

「2025-26年度 会長エレクト研修セミナーのご案内」

日時 3月15日(土) 10:00～17:00

会場 ホテルイタリア軒

成田秀雄さん

新年おめでとうございます。菊池さん卓話よろしくお祈いします。

中村和彦さん

都合により早退します。菊池さん卓話ご苦労さんです。

小越憲泰さん、五十嵐博宣さん、明田川賢一さん、松永隆夫さん、飯塚一樹さん、早川滝徳さん、渋谷政道さん、中林順一さん、五十嵐晋三さん、安達俊明さん、小林吾郎さん、松永一義さん、山田富義さん、歸山 肇さん、齊藤真澄さん、柳取崇之さん、高橋俊樹さん、荻根澤隆雄さん、中村友昭さん、落合孝夫さん、船越良則さん、高橋 司さん、嘉瀬一洋さん、杉山幸英さん、丸山行彦さん

菊池会員、本日は卓話ありがとうございます。お話し楽しみにしております。

1月15日分 ￥ 33,000
今年度累計 ￥724,000

ニコニコBOX

渡辺良一 会長

今年一年“洒脱”な年であるように心がけていきます！
菊池さん卓話楽しみにしています。

菊池 渉さん

正月からけっこう忙しく、私が忙しいと言うのはニコニコではないのでしょうか…。
卓話ががんばります。

西山徳芳さん

初夢でウィーン・ニューイヤーコンサートへ行った夢を見ました。タクトが下りる所で目が覚めてしまいました。残念。
菊池会員、卓話ご苦労様です。

斎藤弘文さん

昨夜、三条八幡宮の献灯祭に参加し、自分のこと以上に会員皆様の御多幸を祈念して参りました。

近藤雄介さん

遅くなりましたが、明けましておめでとうございます。

野崎喜一郎さん

菊池会員おもしろい卓話を期待しています。

卓話「^{しゃだつ}洒脱のすすめ」



菊池 渉 会員

吉井年度に、古いロータリアンの一人として入会当時の思い出を話させていただきました。

内容は

- ①私の入会当時は一業種一名だった。
- ②ライオンズのWE SERVE に対してロータリーは I SERVE と言われてきた。
- ③CHANGEすることは当然だが、どう変わって来たかを知る必要がある。
- ④(私は)地区バッチはつけない。ロータリーバッチ一つで十分だ。
- ⑤出欠の確認は間違っている。
等々お話ししたことでした。

あれが私の最後の卓話と思っていましたが、昨年度は私の家庭内のことで、クラブにもご迷惑をおかけした故、恩返しと思い登壇させていただきました。

今日は「洒脱のすすめ！」とテーマを掲げました。

私は、この数年お寺の行事でも、法話に招かれた際もテーマをお出ししています。それには契機がありました。

数年前のある日、燕方面から競馬場の橋を渡って三条市内に入るとき、五ノ町の交差点で信号に引っ掛かり、ちょうどキリスト教教会の前で止りました。すると教会の掲示板が目に入りました。日曜礼拝のお説教の「テーマ」が示されているではありませんか。新鮮でした。

それから教会の前を通るとき、信号が赤になるのを期待するようになりました。私も大いに刺激を受け「私もテーマ設定しよう」と考えたわけです。

新年最初の例会は市長、そして私、次が会議所会頭。両雄に挟まれて、行政の話も経済の話もできない坊主が「さて？何をお話するか？」と考えた末に考え付いたのが「洒脱のすすめ」です。

さて皆さんは洒脱と言う言葉を御存じでしょうか？私のイメージですが、「野暮」の反対語。

「粋」ほどスマートではなく、表面より中身の、ちょっとニヤッとするようなユーモアのある、分かる人にだけ分かるような、シニアにピッタリな生き方ではないでしょうか。

メンバーの中には「ご隠居さま」もおいでと思いますが、「隠居」という言葉の語元はご存じでしょうか？

5世紀漢の時代の中国に陶弘景という武帝の懐刀のような人物がいました。文人で薬学博士で宗教家で政治家である。スーパーマンのような人です。その陶弘景が地位を退いて山の中の庵に移り住んで、華陽隠居と名乗ったことに始まります。

ただこの隠居、山の中で静かに暮らしてはいない。山上から娑婆に向かって文句を言う。それがまた厳しい。

政治家たちはこの隠居の意見を尊重するようになった。山中宰相と呼ばれるくらいです。

一方、江戸落語では必ず「ご隠居さん」が登場する。物知りで、長屋の八さん熊さんの難問奇問にも必ず応える。決して「知らない」とは言わない。知らないことでも応える。その適当な答えで八さん熊さんも大満足。巧みな噺家にかかれば、その噛合わなさが何とも言えない。

隠居というのは引き込んでしまってはダメ。文句を言い続ける。そして何か問われたら、決して「知らない」とは言わない。でたらめでも、理屈をつけて、もっともらしくしゃべる。

これが隠居。洒脱な隠居です。

五木寛之氏がどこかに書いていたのですが、ポルトガルのある街の骨董屋でツボを見つけ、気に入ったので買おうとしたら、骨董屋の主人が、「お前は何故値切らないのか？」と聞いてきたという。

「値切ったらまけるのか」と五木、

「いや、まけない」と主人。

「まけないが何故まけないかを話す」。

「同じことではないか」。

「いや違う、このツボの歴史を、価値を話す」。

「……」。

「お前がこの店に入り、俺と話す、そしてこのツボを買う。俺が旅の安全を願い別れを言う。それが買い物というものなのだ」。

「なるほど」。

洒脱でしょう。

落語と言えば、昔、名人といわれる噺家がいた。芸は旨いが、酒と女と博打に弱い。

ある日、ある寄席の出番、出囃子に合わせて高座に上がったまではいいが、頭を下げたきりビクツとも動かない。頭を上げない。したがって噺が始まらない。そのうち客席からヤイヤ・ヤイヤ罵声上がる。しかし頭を上げない。

暫くして、客席から声がかかる。

「師匠！質草、落としたよ！」。

心得た御鼠負が近くの質屋から、質草に入れた噺を落としたのです。

すると、「毎度ばかばかしいお噺で…」と始まる。これですよ。

お相撲が始まりましたが、結びの一番で下位力士が横綱を破ると座布団が飛ぶ、このいわれをご存じですか？昔は座布団ではなくて、羽織が投げ込まれたとのこと。すべて終わって相撲部屋の若い衆が、投げ込まれた羽織を返しに行く。羽織には家紋が入っているので、御鼠負の旦那様の羽織が分別できる。

羽織を届けてくれた若い衆に、御鼠負筋から「ご褒美」が出る。こんな文化、洒脱ですよ。



三条クラブの先輩たちには洒脱な方が大勢おられました。

私が入会した当時、正月最初の例会には「お酒」が振舞われました。入会翌最初の年頭、お酒が出るとは知らない私は車で参りました。お酒はお持ち帰り。二年目は歩いて参加して飲みました。

その時調子に乗って、「酒気おび運転がうるさくなったこの時代にお酒はいかがなものか？」と申しましたら、某先輩が、菊池君、君も早く運転手付きで来れる身分になりなさいと一喝され、ロータリーというのはそういう人の集まりなのだ、思い知らされたことでした。

地区でもお名前が知れ渡っていたA氏、長老、重鎮だということもあり、いろいろな宴席で乾杯の発声役を担っておいででした。その時のセリフが実に良い。

美味しいものを前にして、長しゃべりするのはコケッコウ(鶏)と政治家だけ。ロータリアンは短く、乾杯!

こういうのを洒脱と言うのです。こういうシニアになりたいと思ったものです。

乾杯と言えば、映画「カサブランカ」のラストで、ハンフリーボガードがイングリッド・バーグマンに、愛するがゆえに別れるシーンで、こう言うでしょう。

Here is looking at you , kid !
これを高瀬鎮夫は、
君の瞳に乾杯!
と訳したのです。このセンスです。洒脱そのもの。

またB氏は、宴席でお酒をすすめると、僕は決めているんだ。酒と〇〇〇は二合までと。
こんな断り方をされたら、これ以上すすめられなくなりますよね。シニアにしか言えないセリフ。こんなセリフを早く言えるようになりたいと思ったことでした。

C氏も洒脱な人でした。政治の世界で野中広務が「毒饅頭」なる言葉を流行らせていたころ、毒饅頭は食うな、ただ酒は飲むな と示唆してくださいました。

極めつけはD氏。宴席の後、二次会に立ち寄ったバーのカウンターで、トイレから帰って彼の隣に座った私に、菊池君、君はまだ現役か?と問われました。彼の意味するところは充分理解できたのですが、目上の先輩とこの手の話題は避けようと、とぼけた返事をしておりますと、それを察したD氏、君もそろそろだろうから教えておくれと、

いつか小便の時、し終わった後に、黄色い球がコロコロと出る。その2~3か月後に、今度はオレンジの球がコロコロと出る。また2~3か月後に、今度は赤い球がコロコロと出る。それで打ち止め。大事に使い!

「ああ、打ち止めか!」、実にうまいことをおっしゃる。まだまだ洒脱な先輩は大勢おいででしょう。いつかそんな先輩たちの一人に加えてもらえるような、ロータリアンになればと、新年のRESOLUTIONとして話させていただきました。

合掌

— 例会の様子 —



次週例会 1月29日

「外部卓話」

すいみいはうすところと発達へのケア相談室
臨床心理士・公認心理士 佐藤浩平 様
およぐペンギンご意見おまとめ係 竹石幸織 様

次々週例会 2月5日

「外部卓話」

およぐペンギンご意見おまとめ係 竹石幸織 様

